

東北大学医学部保健学科 同窓会新聞

発行人 大森純子
 発行所 東北大学医学部保健学科
 仙台市青葉区星陵2の1
 編集人 東北大学医学部保健学科
 編集委員 同窓会新聞編集委員会
 西山真美、遠藤美芽、
 武石陽子

ご退任される先生のご挨拶

令和元年度をもって、看護学専攻から、丸山良子先生のご退任されることとなりました。丸山先生にご挨拶を頂戴しましたので、ご紹介いたします。

看護アセスメント学分野 教授 丸山 良子 先生

2020年3月をもって15年間を過ぎた東北大学を退職することになりました。この15年は開設直後の保健学科、大学院、2011年の東日本大震災と何かと大変な時期でしたが、卒業生や大学院修了生の成長とともに過ごすことができた年月で、この上なく幸せな日々でした。



私は東北大学に着任前、医学部国立研究所、私立大学と公立大学の看護系と異なる施設で仕事をしてきましたが、どの経験も決して無駄になることはなく、東北大学での仕事の糧になりました。異なる施設や大学の経験は、自分の持つ価値観だけでなく、多様な価値観を認めることに繋がったと思います。設置目的が異なる大学は、もちろん学生の皆さんの様子も異なります。東北大学保健学科で学ぶ皆さんは、将来は指導者、リーダーとしての役割を果たしていくこととなります。自ら考え、自分のためだけでなく「誰かのため」に「持てる能力を発揮できる人材に育って欲しい」と願っています。



着任当初、ほとんど何もなかった研究室から、多くの卒業生と大

学院修了生の努力により、私が目指したいと考えた看護技術のエビデンス構築、臨床で行われている患者ケアやアセスメントの発展に寄与できる研究の一翼を担えたのではないかと考えます。



2007年に東北大学保健学科に初めて入学した皆さんが4年生になり、卒業研究が始まりました。その時の研究がその後続く分野の看護研究の走りとなり、先輩から後輩へと引き継がれて現在の発展をもたらしてくれました。やる気あるアイディアを持った卒業生と大学院生修了生に恵まれたからこそ、感謝の気持ちでいっぱいです。研究成果は今日すぐに役立たないかもしれませんが、いつか誰かのためになれば良く、そんな仕事に誇りを持って欲しいと思います。



保健学科が東北大学の中でも新しい学科で、卒業生も修了生もまだ若く、現在は臨床、公的機関、大学や会社など多様な場所です。それぞれの職務に邁進しています。日本だけでなく、世界は今、気候変動や環境の悪化、感染症の脅威など多くの健康問題にさらされています。成長した皆さんの今後の活躍と社会貢献が楽しみです。



私は冬の寒い長野県松本市で高校まで過ごし、寒いところは比較的慣れていましたが、仙台は暑すぎず、寒すぎることなく住み易く、また、市内には美味しいものが多く、大学以外の生活も充実した楽しいものでした。この15年間、健康で元気に東北大学で過ごすことができたことは、まず育て

てくれた両親といつも応援してくれた家族に感謝です。



保健学科看護学専攻の先生をはじめとして、私を支えて下さった多くの皆様のご援助とご指導に心より御礼を申し上げます。皆様のご健勝とご活躍をお祈りしています。東北大学保健学科の益々の発展を願い、退職の挨拶とさせていただきます。また春が来ます！



新任の先生のご挨拶

今年度に入り、新たに本学科に就任されました先生のご挨拶を頂戴しましたので、ご紹介いたします。

精神看護学分野 助教 小林 奈津子 先生



平成31年4月に精神看護学分野に着任いたしました、小林奈津子と申します。千葉県出身で、平成16年に東北大学を卒業後、精神科医として臨床経験を積み、精神神経学分野にて博士課程を修了いたしました。周産期精神医学、児童精神医学、リエゾン精神医学など、他分野や多職種との連携が重要な領域に関わることが多かったこともあり、様々な専門性が相互に活かされるような医療を実践していければと考えています。この度保健学科にお世話になれたことは、そのいくつかの専門性のバックボーンを学ばせていただく貴重な機会をいただいたものと、ありがたく感じております。

研究歴はまだまだ浅いですが、精神疾患を持つ妊産婦の支援やその児の発達フォロー、周産期の精神科薬物治療、災害時の妊産婦の心理支援などに興味を持って取り組んでいます。教育に関しても不慣れな点が目立つかとは思いますが、

すが、真摯でフレッシュな学生さん達に刺激を受けながら努力して参りたいと思いますので、ご指導・ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

ウェアセレモニー

今年度は、令和元年9月19日に放射線技術科学専攻、9月25日に検査技術科学専攻のウェアセレモニーが行われました。
代表を務めました学生さんの決意表明の言葉をご紹介いたします。

放射線技術科学専攻三年

伊藤 菜穂



本日はこのようなセレモニーを開催していただき、ありがとうございます。今日という日を無事に迎えられることを、とても嬉しく思います。これまでご指導いただいた先生方に感謝申し上げます。

先ほど実習を着させていただいた際、ついに見習いではあるものの医療人の一員として現場に赴き、より実践的なことを学習する

のだと実感し、身の引き締まる思いです。



実習を通して、これまでに得た知識をどのように活用するかを確認し、改めて理解を深めたいと考えています。

また、実習でも現場のスタッフの皆様や先生方から知識を吸収し、今後の勉学や将来携わるであろう医療に生かせるよう、熱意を持って取り組みます。
先生方、病院のスタッフの皆様、ご指導よろしく申し上げます。



検査技術科学専攻三年

菅原 奏音



本日は私たちのためにこのような式典を開催していただきありがとうございます。

代表してお礼申し上げます。今日、私たちがここに立ち、実習を迎えられるのはこれまでご指導いただいた先生方のおかげです。本当にありがとうございます。



私たちはさきほど着させていただいた白衣を身に纏い、これから実習に赴きます。



そこでは、今まで学んだこと、実践してきたことを臨床で行うことへと昇華させていきたいと思えます。

そのために、私たちは先の実習に真剣に取り組みます。そして、貴重なこの実習期間を必ず実りあるものにするを誓います。
また、実習中は、私たちも社会の一員、医療従事者として見られるため、常に責任・自覚をもって



行動したいと思えます。
その後、実習を終えた際に、東北大学医学部保健学科検査技術科学専攻であることを、胸を張って言えるようになります。
そして、それまでお世話になった全ての方々に成長した姿を見せたいと思えます。



卒業研究発表会

令和元年度の卒業研究発表会が行われました。各専攻の担当教員よりご報告を承りましたので、ご紹介いたします。

看護学専攻 教務会

- 清水 恵 先生
- 丹野 寛大 先生
- 田口 敦子 先生
- 佐藤 富美子 先生

令和2年1月8日(水)に、2019年度(13期生)看護学専攻卒業研究発表会が開催されました。記念すべき令和初となる本発表会では、English発表2題を含む67題の研究が発表されました。



当日は前日の日から降り続いた雪のために足元が不安定な状態でしたが、天候による急な遅刻などもなく、予定通り発表会が行えました。
学生は、大学での講義や前年度の卒業研究を聴講し、自身の関心事にあった研究室およびテーマを選択し、研究に取り組みます。およそ1年間という短期間ではありますが、研究プロセス、論文の作成方法、発表のコツなどを学びます。

今年度は、がん看護学分野が9題、成人看護学分野が3題、小児





看護学分野が3題、看護アセスメント学分野が6題、緩和ケア看護学分野が5題、公衆衛生看護学分野が16題、看護管理学分野が4題、ウィメンズヘルス・周産期看護学分野が9題、精神看護学分野が6題、老年・在宅看護学分野が6題の発表がありました。それぞれの分野の特色が現れた、多岐にわたるテーマの研究が発表されました。

ほとんどの学生が発表は初めての経験でとても緊張したはずですが、堂々発表する姿に、4年間の成長を感じました。また、質疑応答も活発に行われ、時には、自身の研究について熱く語り、時間が超過することもありました。研究の面白さを感じることができた学生も多かったのではないのでしょうか。

論文完成までの過程では、行き詰ることも多々あったかと思えます。でも、生みの苦しみを乗り越えた末の論文やその発表は、きっと今後の人生の糧になることと思います。学部で培った研究力をさらに高めるために、今回発表した論文について学会発表や論文文化を進めていくことを期待します。



令和元年11月26日(火)、星陵オーデトリウム講堂にて、保健学科放射線技術科学専攻卒業研究発表会が開催されました。今年度は、本専攻の7つの分野の研究室に配属された学生33名とサイクロトロノリセンター(CYRIC)の研究室に配属された学生3名の合計36名が発表を行いました。本専攻やCYRICは、X線(マンモグラフィやCT)、MRI、PET、蛍光など様々なモダリティを使い、イメージングや治療を中心とした研究を進めています。このような背景から本年度の卒研発表



放射線技術科学専攻
医用物理学 教授
権田 幸祐 先生

度になっていきます。実際、4年生の中には、卒業までの間に学会発表を行ったり、大学院進学後の国際会議や論文投稿へ繋がる成果を上げていく学生も多くいます。昨年度から教育課程が改訂され、卒業研究はこれまでより半年早い3年生後期から開始されています。これにより4年生から3年生への研究内容の継承は、よりスムーズにかつ効果的に行われるでしょう。放射線技術科学専攻の各分野の特徴を活かした、さらなる研究成果の充実が期待されます。



会では、「がん、動脈硬化症、筋萎縮などの疾病のメカニズム解明、計測技術、画像診断技術」、「がん放射線治療技術」、「放射線治療施行者の被曝軽減技術」、「死因究明を目的とした死亡時画像診断技術」など多岐に渡る研究領域の発表がありました。質疑応答では、多くの3年生が積極的に挙手し質問している頼もしい姿が見られ、とても活発な議論が行われました。4年生の研究への熱意と、先生方の丁寧な指導のシナジー効果によって、発表内容は年々高

2019年11月14日に星陵オーデトリウムで検査専攻卒業研究発表会が開催されました。今年度は、4年生37人が発表8分、質疑応答2分の計10分を持ち時間として午前9時から午後5時10分まで研究発表を行い、同時に4年生の13人が座長として司会進行を、3年生35人がタイマー係、照明係、マイク係として発表会全体の進行を担当しました。毎年のことではありますが、初めに大まかな段取りを説明するだけで、



検査技術科学専攻
臨床生理検査学 教授
三浦 昌人 先生



後は自分達だけでテキパキと会を進めていくのを見るにつけ、学生達の潜在能力の高さを実感しました。授業のときは全く別の一面を見せる学生もおり、驚きと新鮮さを覚えました。今年の4年生は4月からの約8カ月間、保健学科



令和2年度1月11日(土)に第13回リトリート大学院生研究発表会が開催されました。保健学

第13回リトリート
大学院生研究発表会



検査技術科学専攻の研究室に13人、医学科や加齢医学研究所の研究室に24人が配属されましたが、それぞれの研究室で行われている最先端の研究を簡潔に、しかも専門外の私でさえも研究内容を窺い知ることができるよう以上にまとめ、さらに座長やフロアからの質問にも丁寧に答えているのが大変印象的でした。今後、病院あるいは一般企業で働く上で得難い経験を積んだものと確信しております。最後に、難解な研究内容を全く素人の学生達に理解させ、今回のような立派な研究発表にまで導いて下さいました各分野の先生方の御尽力に心より感謝申し上げます。



科A棟では口頭発表、星陵会館ではポスター発表と懇親会が行われ、日々の研究成果発表後に活発な議論が行われ、懇親会で親睦を深めることとなりました。

本発表会は、東北大学大学院医学系研究科の大学院生が実行委員会を組織し、企画・運営の一切を行うイベントです。

数ある演題の中で、計8名の学生が優秀賞、優秀ポスター賞に選ばれました。くわえて本発表会に参加した学生の中から次の8名が優秀賞に選ばれました。



優秀演題賞

■小児病態学分野
医科学専攻博士課程1年
小林 美佳

「後期早産児・早期正常産児の神経発達予後と発達特性に関する疫学的調査」

■循環器内科学分野
医科学専攻博士課程2年
中田 貴史

「右心不全に対する低出力パルス波超音波治療の有効性と安全性に関する基礎的検討」



優秀ポスター賞

■生体システム生理学分野
医科学専攻博士課程2年
Liu Dong Yu

「Neurological analysis of the GAD67 knockout rats」

■医化学分野
医科学専攻博士課程2年
Harit Panda

「Dietary supplementation with sulforaphane attenuates liver damage and heme overload in a sickle cell disease murine model」

■分子腫瘍学研究分野
医科学専攻博士課程2年



■医化学分野
医科学専攻博士課程4年
林 真貴子

「微小環境におけるNF- κ B活性化はNF- κ B依存性悪性がんの進展を抑制する」

■発生発達神経科学分野
医科学専攻博士課程2年
Lingling Mai

「Paternal aging causes a typical development of vocal communication in neonatal mice」

優秀質問賞

■糖尿病代謝内科学分野
医科学専攻博士課程1年
久保 晴丸

■基礎加齢研究分野
医科学専攻博士課程2年
坂田 菜摘

■遺伝子導入研究分野
医科学専攻博士課程2年
毛塚 大

■公衆衛生学分野
医科学専攻博士課程2年
松元 浩一

優秀学部生賞

■細胞増殖制御分野
医学科3年 学部生
菊川 柚奈

■病理診断学分野
薬学部4年 学部生



陳冠

「加齢に伴う初代線維芽細胞の染色体安定性変化の実態とその分子基盤の解明」

■医用物理学分野
保健学専攻修士課程2年
加藤 智尋

「血管新生阻害剤と放射線治療の併用による新たな腫瘍兵糧攻め治療の開発」

元村 直樹

■医化学分野
医学科3年 学部生
勝浦 理人

■医学科2年 学部生
廣田 嵩人

●看護アセスメント学分野
教授 丸山良子先生
退官 (令和2年3月31日)

●公衆衛生看護学分野
准教授 田口敦子先生
退職 (令和2年3月31日)

異動先…
慶応義塾大学 教授

●公衆衛生看護学分野
講師 津野陽子先生
退職 (令和2年3月31日)

異動先…
埼玉県立大学 准教授

人事異動

令和元年度に行われた人事異動についてご報告いたします。



卒業といえ、桜を連想される方も多いと思います。

桜の花言葉は日本では主に「精神美」であると言われてますが、西洋ではそれに加え、「優れた教育」という花言葉もあるそうです。

この東北大学という素晴らしい学びの環境で豊かな教養を得て卒業を迎える皆様にぴったりの花言葉ではないでしょうか。

春の日差しが柔らかく注ぐこの時期、ゆっくりとお散歩を楽しみながら色とりどりに咲く花々を眺めてみてはいかがでしょうか。

医学系研究科保健学専攻
博士前期課程1年
西山真美、遠藤美芽

第23号も皆様のご協力のもと、無事に発行することができました。快く編集に協力して下さった皆様のおかげで、様々な内容の記事を紹介することができました。少しでも目を通していただけたら幸いです。年度末のお忙しい時期に寄稿してくださった先生方、学生の皆様、そして写真提供にご協力くださった一條様はじめ医学部広報室の皆様にご心より感謝いたします。

さて、この度晴れて卒業を迎えられる学生の皆様、ご卒業おめでとうございます。

編集後記

●がん看護学分野
講師 佐藤菜保子先生
退職 (令和2年12月31日)

異動先…
福島県立医科大学 教授

●地域保健学分野
講師 Cindy Chiu 先生
退職 (令和元年8月31日)